



腎盂腎炎ってなに?

どんな
病気?

尿道から入った細菌が増殖し腎盂に炎症が起こる。

腎盂とは、尿を集める袋状の部分で、腎臓の一部です。オシッコの出口となる尿道から侵入した細菌が、膀胱、尿管、腎盂へとさかのぼり、腎盂に炎症を起こします。

急性腎盂腎炎と慢性腎盂腎炎の2種類あり、犬には急性のタイプが多いといわれています。

おもな
原因腎盂腎炎が単発で起こることは少なく、
何らかの基礎疾患が原因になっています。

原因になるおもな基礎疾患

- 尿路結石
- クッシング症候群
- 糖尿病
- 慢性腎臓病
- 免疫抑制剤やステロイドの長期服用が必要な病気
- 加齢や交通事故などにより下半身の動きが悪くなって起きる排尿障害 など

再発を繰り返すこともあり、その場合は、膀胱炎を起こしがちです。

また、原因菌はウンチに含まれる大腸菌、皮膚の常在菌であるブドウ球菌などが中心です。

おもな
症状発熱や元気消失のほか
オシッコに変化が出ることも。

- 発熱（体が熱い）
- うずくまって動かない
- 食欲がなくなる
- 体が震える
- 嘔吐・下痢
- 多飲多尿
- オシッコの色が赤褐色
- 腎痛（背中を触ると嫌がる、抱くとキャンキャン鳴く）など

急性腎盂腎炎では、多くのケースで発熱が見られます。飼い主さんが元気がない愛犬を抱こうとして、体が熱いと気づくこともあるようです。慢性腎盂腎炎では、目立った症状が出ない場合が多く、無症状のこともあります。

検査と
治療法

確定診断するには、麻酔をかけ腎盂に針を刺して採取したオシッコの培養検査が必要です。しかし、犬への負担が大きいことや、行える施設が限られることなどから、一般的には、発熱や痛みといった症状、炎症反応などをみる血液検査、腎盂の状態を確認する超音波検査、膀胱穿刺で採取したオシッコの培養検査などから総合的に診断します。治療は、抗生物質の服用で、一般的に4～6週間続けます。細菌培養検査の結果に基づいた抗生物質を服用することが大事です。長期服用のリスクを考慮して、食事療法やサプリメントの服用を併用することもあります。また、基礎疾患があれば、その治療も並行します。

予防法

オシッコの回数・量を増やす

水分摂取量を増やす

- ・フードの一部をウェットフードに替える
- ・水飲みボウルを複数置く
- ・水でふやかしたフードを与える

散歩や室内遊びで体をよく動かす

細菌の侵入を防ぐ

陰部のまわりをいつも清潔にしておく

腎盂腎炎はシニア犬に多い病気のため、半年に1回は健康診断を受けて、早期発見に努めましょう。



いぬに多い病気、そこが知りたい! は「いぬのきもち」で連載中!

●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込みと
2号 (2ヶ月分) **無料!!**